

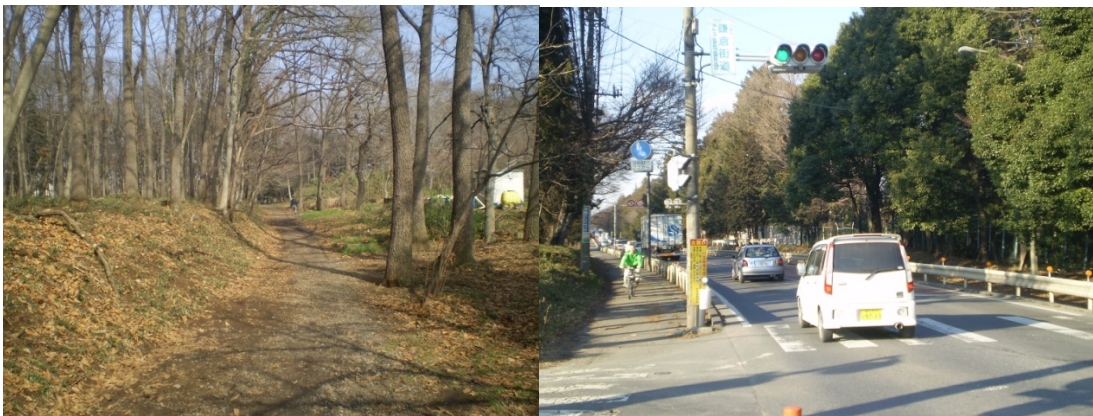
3. 「コラムを読む」

歴史のみち、近代土木遺産、記念碑、災害史、今昔写真集

歴史のみち

・鎌倉街道上道 ～いざ、鎌倉～

鎌倉時代、関東各地から鎌倉に至る幾筋もの道があった。このうち「上（かずさ）道」と呼ばれる道が管内を南北に毛呂山町大類～坂戸市森戸～日高市高萩を通っている。国道407号とも交差しており、「鎌倉街道」の交差点標識も付いている。



毛呂山町歴史民俗資料館の西側

日高市大谷沢、写真は国道 407 号

・日光街道脇道 ～八王子千人同心と杉並木～

江戸時代、八王子千人同心が日光東照宮の火の番のために通った道。東京都瑞穂町から入間市に入り、入間川を渡り狭山市根岸、日高市高萩、鶴ヶ島市、坂戸市を通る。千人同心一行は八王子を出て、入間市の扇町屋宿で昼食、坂戸宿で一泊していた。入間川以北は現在の国道407号沿いのルートとなっている。現在も日高市、鶴ヶ島市内には杉並木が残されており、地元では「日光街道杉並木」と呼ばれている。



入間市二本木宿と道標（都県境近く）

杉並木（日高市高倉新田）

・秩父街道（吾野通り） ～絹の道、札所まいるの道～

江戸と秩父を結ぶ最短ルートであり、新宿～田無～所沢～入間～飯能～吾野～正丸峠～秩父の道筋は、現在も国道や都県道になっている。秩父の絹が江戸に運ばれ、江戸からは秩父札所まいるの人々も通った。飯能市坂石町分にある吾野宿の町並みは、今も往時の面影を残している。高麗川沿いの国道 299 号は、明治 40 年ごろ 2 間（約 3.6m）の幅で改修され、昭和 50 年代から本格的な拡幅改良工事に着手、現在では一部の区間を除き、両側に歩道の付いた道路に整備されている。



吾野宿の町並み、「秩父街道」の標柱



吾野バイパス、西川小学校前

近代土木遺産

・畑トンネル

昭和 62 年(1987 年)に青梅飯能線バイパスが開通するまでの 77 年間にわたり地域の交通を担ってきた。素掘りのトンネルは秩父方面にあったが、煉瓦巻きのトンネルは埼玉県で第一号であった。

所在地：飯能市下畑

竣工年：明治 43 年（1910 年）

構造等：延長 78.3m、幅 4.2m、煉瓦巻き



飯能と青梅は昔から交流が盛んであったが、大きく迂回する道路しかなく、明治 30 年に飯能町長と南高麗村長の共同で県知事にトンネル開削の陳情を行った。当時は、日露戦争などの影響で実現しなかったが、明治 41 年に飯能青梅道として着工された。

・名栗川橋

平成 18 年に土木学会から特に優れた近代土木遺産として「選奨土木遺産」に認定された。埼玉県指定有形文化財（平成 11 年指定）でもある。（飯能市道橋）

所在地：飯能市下名栗 278-1

竣工年：大正 13 年（1924 年）

構造形式等：鉄筋コンクリート造りアーチ橋 橋長 32.3m、幅 3.9m



明治 43 年 8 月の大雨で流出した木橋の復旧に際し、地元では洪水で流出しない永久橋を望んだが、県の補助と村負担の費用では工事費が不足した。地元では寄付を募って費用負担するとともに労務の無償提供もした。竣工当時、県内で最大スパン（支間長）を誇った。

記念碑

- ・東京大宮（秩父）道の開削記念碑（明治 34 年（1901 年））

場所：国道 299 号、日高市台（滝不動尊）



上半分が割れてなくなっている

飯能方面から秩父方面

江戸末期の地図を見ると、現在の国道より西側の山中を通り、今の武蔵横手駅を結ぶ道がある。飯能～秩父の最短ルートで当時は主要路であったが山越えの険しい道だった。その後の明治33年の道路改修では、距離は長いものの現在のルートで工事が行われた。なお、現在、国道の東側の山中を通るバイパス事業が進んでいる。

・入間川越生道の開削記念碑（明治44年（1911年））

場所：県道日高狭山線、飯能市川崎（お寺の近く）



記念碑と現在の道路

近くに残る旧県道、明治の道路改修

明治28年に川越鉄道（今の西武新宿線）の入間川駅（今の狭山市駅）が開設された。当時、鉄道駅に繋がる道路の整備が望まれていた。記念碑には沿線の町村長をはじめ多くの人の名前が残されている。昭和58年に現在の道路に改修されている。

・入間川成木道の開削記念碑（昭和2年（1927年））

場所：県道富岡入間線、飯能市阿須（入間市境近く）



新道記念碑と刻まれている

飯能から入間方面

当時の入間川町と青梅方面を結ぶ路線である。飯能市阿須と入間市仏子の境は、山が入間川まで張出した交通の難所で開削以前は道路が入間川の対岸を迂回していた。開削は7年を要する難工事であった。平成20年には山側の歩道設置工事が完了した。

・入間川、高麗川の源流



一級河川起点の石と砂防堰堤
飯能市上名栗、妻坂峠近く



高麗川源流の碑
飯能市坂元、刈場坂峠近く

・道標

豊岡温故公園の道標（入間市指定文化財・史跡）

もともとは日光脇往還と秩父往還の交差する入間市河原町付近にあったと思われる。八王子、所沢など現在でもなじみのある地名が残されている。



管内には、国道、県道、市町村道を問わず数多くの道標が残されている。

・道路元標

旧道路法（大正 8 年制定）で各市町村に 1 つ設置するとされた。現在も当時の町村役場近くに数多く残されている。



川越日高線、日高市梅原



越生長沢線、越生町小杉

・石橋供養塔

橋の安全や行きかう人々の無事を願って建てられたと言われている。現在でも管内に数多く残されている。



日高川島線、日高市田波目

文化13年（1816年）二月建立

道標を兼ねており、北／小川・越生とある。

飯能寄居線旧道、飯能市中居

宝暦四年（1754年）の文字が見える。

災害史

明治以降、幸い地震による大きな被害は発生していない。ここでは管内で大きな被害が出た明治43年、昭和22年、平成11年の水害について触れる。

・明治43年の水害（降雨量、被害概要は熊谷気象台資料による。以下同じ）

発生日月日：明治43年（1910年）8月1日～16日

災害名：大雨（前線、低気圧と2つの台風）

降雨量：名栗 1,216mm、秩父 936mm、浦和 535mm

被害概要：死者・行方不明者 347人、床上浸水 59,306棟、堤防決壊 945箇所、山崩れ 3,329箇所、道路被害 4,392箇所、橋流失 1,103箇所（以上、全県内）

明治期最大の水害で飯能県土管内でも各地で大きな被害が出た。特に当時の名栗村上名栗では山崩れにより民家8戸が埋没・崩壊、死者23人、また吾野村では土石流が発生し高麗川に天然ダムを形成し、南、坂石町分で死者22名、民家埋没7戸、流出7戸、全半壊22戸の大きな災害となった。



旧名栗村の被災状況と穴沢の慰霊塔



高麗川の復旧工事の様子（旧吾野村坂石町分）

・昭和 22 年の水害

発生年月日：昭和 22 年（1947 年） 9 月 14 日～15 日

災害名：大雨（カスリーン台風）

降雨量：秩父 611mm

被害概要：死者 101 人、床上浸水 44,855 棟、各地で堤防決壊など（以上、県内）

明治 43 年以来の大水害であり、利根川が埼玉県大利根町で 340m にわたって決壊、濁流は県の東部を流下、東京東部を水没させた。管内では坂戸市で死者 5 名、床上浸水 300 棟、橋流出 33 箇所、日高市で高麗川巾着田の鹿台橋と天神橋、下流の新井橋が流失したとの記録がある。

・平成 11 年の水害

発生年月日：平成 11 年（1999 年） 8 月 13 日～16 日

災害名：大雨（熱帯低気圧）

降雨量：浦山（秩父）478mm

被害概要：床上浸水 462 棟、床下浸水 2,628 棟、土砂崩れ 340 箇所（以上、県内）

降雨量としては、昭和 22 年のカスリーン台風による大雨に次ぐ戦後 2 番目の規模。管内では、坂戸市で床上浸水 134 棟、飯能市で床下浸水 134 棟、土砂崩れ 58 箇所の記録がある。坂戸市では飯盛川や葛川流域の広い範囲で、入間市では入間川右岸の秋津川合流点付近で

浸水被害が発生した。また、西武秩父線吾野駅のホームが土砂に埋まり、約1か月間電車が不通となった。



坂戸市、葛川下流部の浸水状況



吾野駅の被災状況

今昔写真集

- ・明治期県道の遺構（鉄道との立体交差）

飯能市宮沢地内の山中に残る明治期の飯能・越生道、JR八高線（昭和8年開業）との立体交差部に橋台が残されている。戦時中までは橋が架かっていたという。

現在の県道は大正9年頃に整備された。明治期の県道は山の尾根伝いを通っているが、現在の県道は尾根より下を通り、途中に大規模な開削箇所や盛土箇所が見られる。



明治期の県道、今はひっそりとしている。 八高線との交差点部（左写真の先）
当時、越生～飯能の定期馬車があったという。 コンクリートの橋台が残っている。



現在の県道（飯能寄居線） 昭和 40 年代までは左側も山で、いわゆる「切通し」だった。

・直営道路補修作業（昭和 30 年代）

当時はほとんどの道路が砂利道だった。人力による苦勞の多い作業だった。

現在はすべてが舗装道路になり、主に機械力による路面の補修工事が行われている。



青梅秩父線、旧名栗村地内

・ 定点写真（橋梁台帳の写真から）

昔（昭和 40 年（1965 年）頃）

今（2010 年）



飯能市井上、国道 299 号

秩父方面を望む。明治 40 年頃改修され、昭和 60 年頃今の道路に拡幅改良された。



入間市寺竹、二本木飯能線（八瀬橋）

金子駅方面を望む。霞川に架かる橋は昭和 37 年竣工、その後歩道橋が設置された。



坂戸市石井、上井草坂戸線

圏央道坂戸 I C 方面を望む。小さな水路がある。



鶴ヶ島市三ツ木、川越越生線

市役所近くから川越方面を望む。小さな水路がある。



日高市鹿山、飯能寄居線

信用金庫前（現在）から、当時はまだ日高陸橋（昭和 47 年）ができていない。



毛呂山町長瀬、飯能寄居線（柳橋）

毛呂山市街地を望む。大谷木川に架かる柳橋は昭和 37 年竣工



越生町黒岩、飯能寄居線（高橋）

ときがわ町方面を望む。越辺川に架かる高橋は昭和 32 年竣工

・ 竣工式典



正丸トンネル開通（昭和 57 年 11 月）



有間ダム完成（昭和 61 年 3 月）



飯能下名栗線小沢工区開通（平成 21 年 3 月）



葛川放水路竣工（平成 21 年 7 月）